

Input EQ (PEQ, GEQ, BLEQ)の追加方法と使用例

1. Input EQ の追加方法（イベント時のオペレーター毎の EQ 設定）
2. Load Library 内のプリセットからの活用方法（Turbosound TBV シリーズ 2 Box/3Box の選択）

Input EQ セクションでは 1 つのプロセッシング・チャンネル内に PEQ、GEQ、BLEQ の 3 種類の EQ を合計 8 つまで重ねること（オーバーレイ EQ）が可能です。（デフォルトでは PEQ1 と BLEQ2 が用意されています。）

補足：PEQ1 の左側に表示されている [XOVER] はアウットプットフィルターで、モードによって機能が異なります。MESA EQ では [HPF/LPF] CL1Way では [FR-1]、AUX では [AUX-1] と表示されます。アウットプット EQ は別途解説を致します。

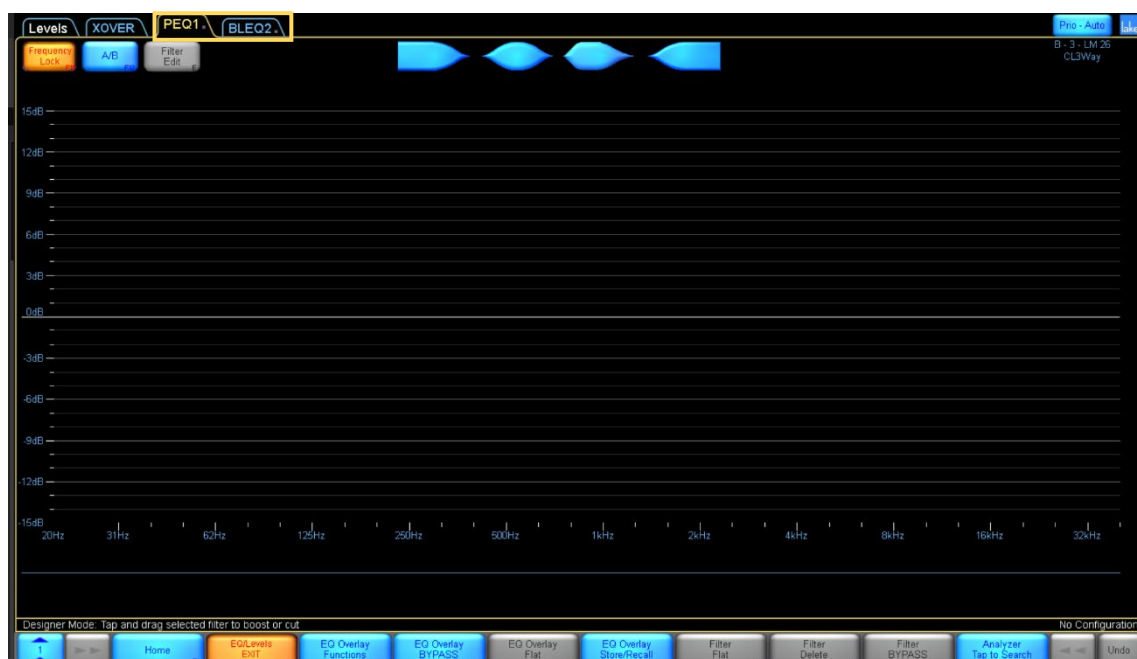


図 1 デフォルト時のインプット EQ の表示画面

コントロールボタンから【EQ Overlay Functions】(F3) → 【EQ Overlay New】(F7)と進んでゆくと【Parametric EQ】(F8) 、【Graphic EQ】(F9)、【Band Level EQ】(F10) が表示されます。希望の EQ を選択することでオーバーレイ EQ としてアサインすることができます。

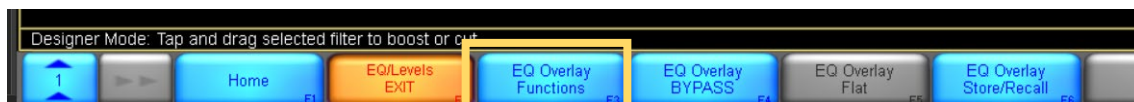


図 2

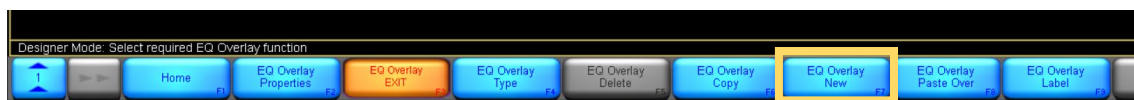


図 3



複数のオペレーターが集まるイベント会場でシステム EQ として Lake Controller を使用する際、各オペレーターがプリセットを保存してリコールという方法もありますが、同日イベントでシステムコンフィグレーションを変更せずに使用したい場合にはそれぞれの EQ を調整後にバイパスにしておき、本番で使用する EQ のみをインサートする方法により不要な設定確認の必要がなくなるためトラブルを最小限に抑えることができます。

各オーバーレイ EQ の名称は【EQ Overlay Functions】(F3) → 【EQ Overlay Label】(F9) にて変更することができるので、現在どのオーバーレイ EQ がインサートされているかを明確にすることができます。

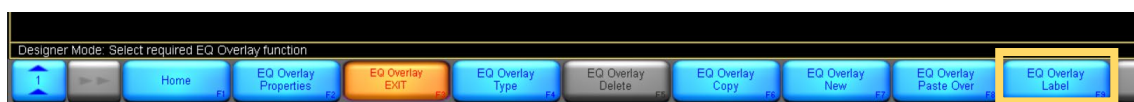


図 4

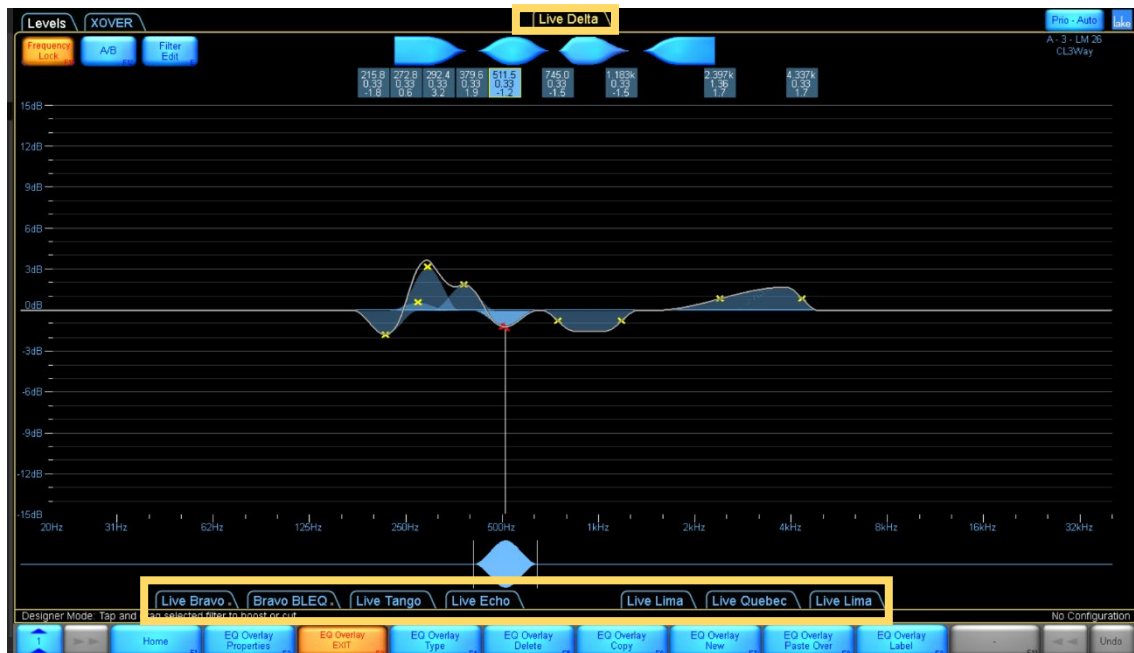
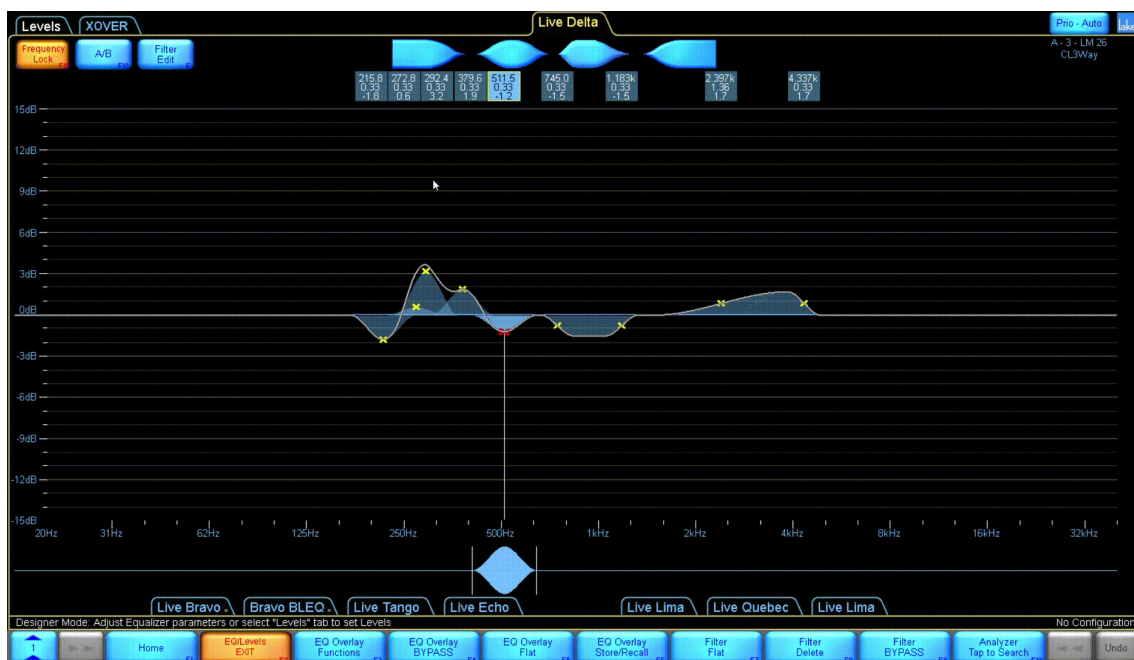


図 5 各 EQ Overlay にラベル（名称）がつけられた状態。上側にあるタブがインサート、下側にあるタブはバイパス

EQ のバイパスやインサートはそれぞれのタブをマウスやポインターで上下に移動させるだけで設定できます。（上側のタブがある場合はインサート、下側にタブがある場合はバイパス）



2. Load Library 内のプリセットからの活用方法

Lake 製品は 20 社を超えるスピーカーカンパニーのプリセットデータ（Load Library）を所有しており、お持ちのスピーカーが Load Library にありましたらスピーカー特性を活かしたデータをリコールすることで、音作りの近道となる場合があります。特に 2-Way、3-Way 等のクロスオーバーを必要とする設定では重宝します。

ここでは Turbosound TBV シリーズで作成されたプリセットデータを使ってそれぞれのデータの利用方法についてご紹介します。

2.1 Load Library からのリコール方法

【Module】(F3) → 【Module Store/Recall】(F8) を選択すると図 7 のように 2 つのフォルダーが表示されます。(Default Module 及び Load Library x.x) フォルダーをダブルタップすると一つ下の階層に移動します。(Windows/Mac のフォルダー管理と同じです。)



図 6

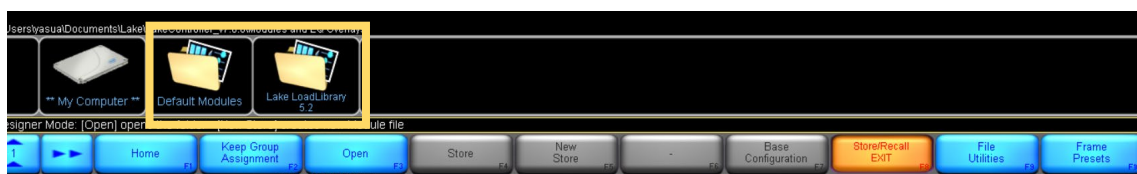


図 7 Module プリセットのフォルダー

Default Module には

- 「Contour Auxiliary」
- 「Contour Classic Crossovers」
- 「Contour Liner Phase Crossovers」
- 「Contour XP」

「Mesa EQ」

のデータが収納されています。



図 8 Default Module フォルダー内

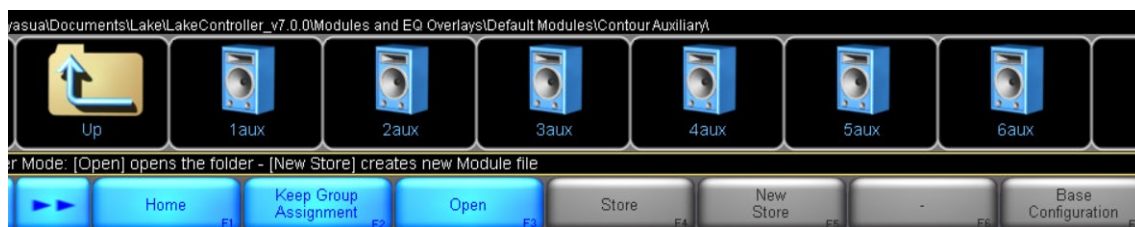


図 9 Contour Auxiliary モジュールプリセットフォルダー内（スピーカーのアイコンがリコール可能なプリセットとなります）

Load Library はアルファベット順にリストアップされております。

矢印をタップもしくはドラックしながら右側に移動することによって表示されていないスピーカープリセットを表示させることができます。

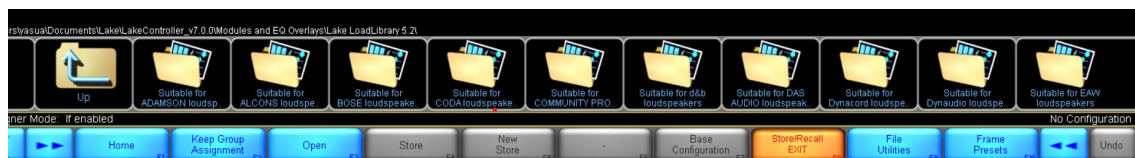
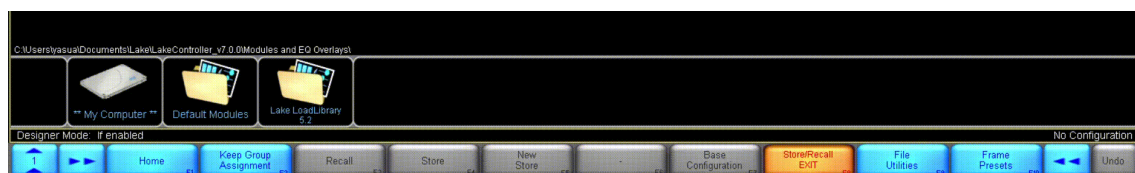


図 10



今回は Turbosound TBV(Berlin)シリーズの TBV123 と TBV118L の組み合わせのプリセットをリコールします。

Load Library のスピーカーデータの多くはハイライトした際に、モジュールに含まれるオーバーレイ EQ やアプリケーションノートなどの情報が表示されます。

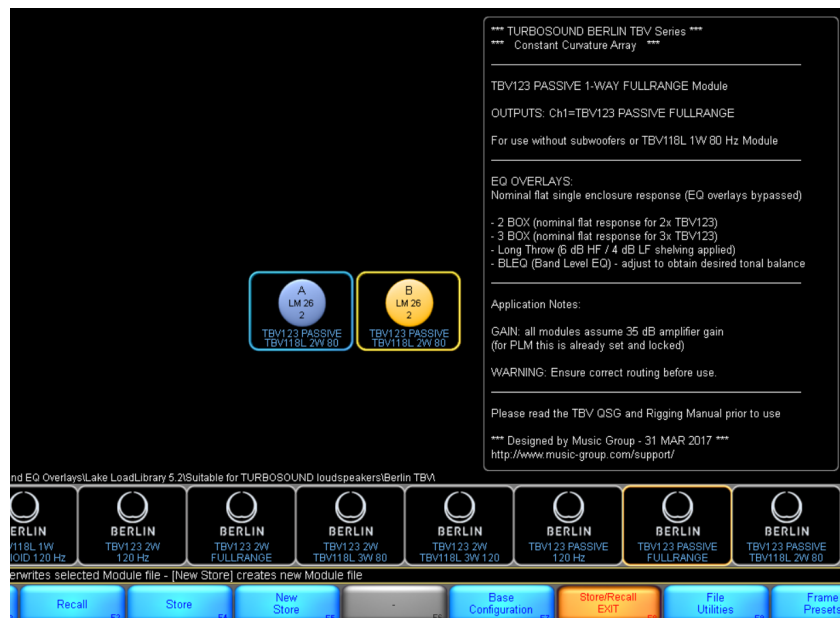


図 11 Turbosound TBV (Berlin)シリーズの Load Library

図 12 ではバイパスになっているオーバーレイ EQ に [2BOX] [3BOX] [Long Throw] の 3 つがあります。 [2BOX] [3BOX] は実際に使用するキャビネット数に合わせたオーバーレイ EQ をインサートすることでチューニングにかかる時間を短縮することができます。

[LongThrow] は、中・長距離のアプリケーションを対象としており、高域のプリエンファシスは、距離による減衰を補正し、低域シェルピングと組み合わせられ輪郭を向上させます。

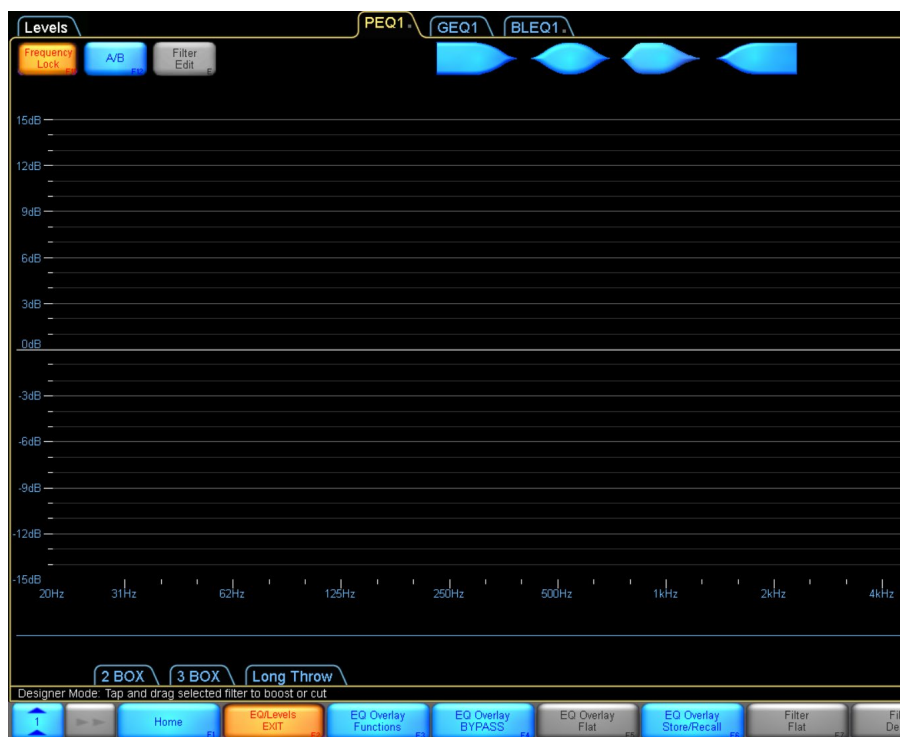


図 12 Turbosound TBV (Berlin)シリーズの EQ 画面

これらのオーバーレイ EQ をインサートすると図 13 のような画面になりますが、これらのパラメーターを編集することはできません。

追加の調整は PEQ や GEQ、BLEQ で行います。

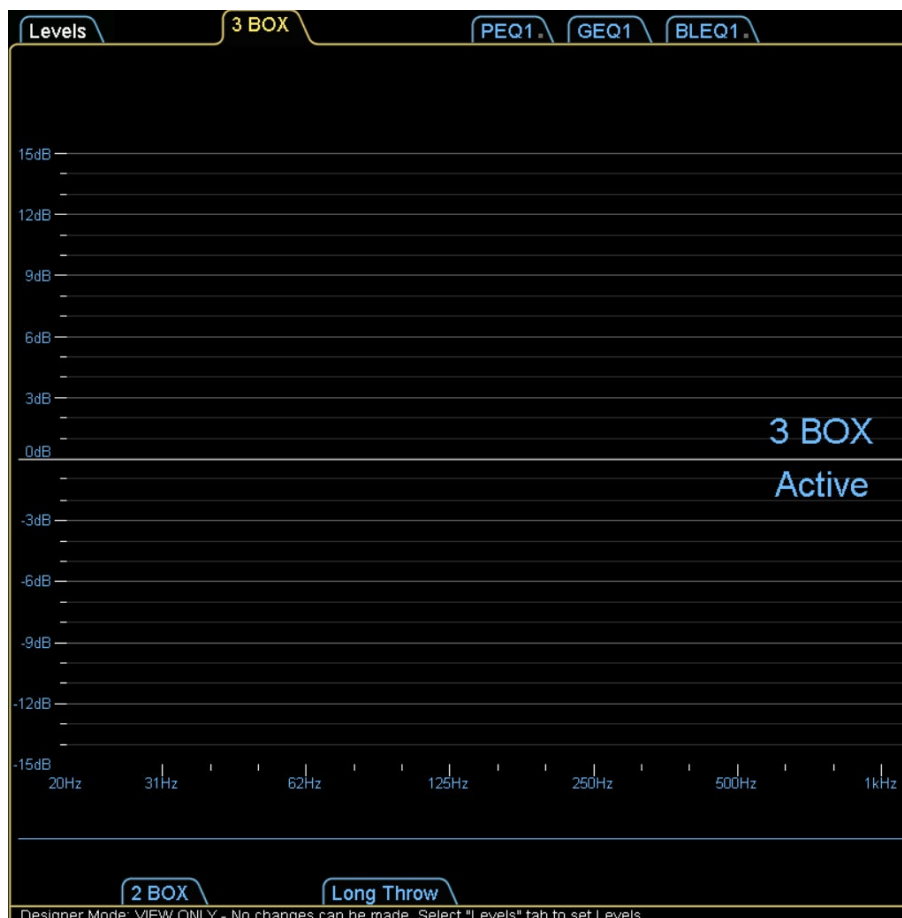


図 13

補足：オーバーレイ EQ は最大 8 つまで使用することが出来ますが、上記の例のように [3 BOX] だけの使用の場合、[2BOX] も [Long Throw] も不要となります。
不要なオーバーレイ EQ は削除することができます。

削除方法はバイパスされている状態でマウスもしくはタッチパネルからタブを下側に移動することで削除できます。



14



PEQ1 及び BLEQ2 の 2 つの EQ は消すことが出来ないページになります。名称を変更後もタブの右下にあるドット表示の EQ は消すことが出来ません。

